高齢者や子ども、障害者の福祉拠点

ユニバーサルカフェ 地域住民憩う

徳島市で社会福祉法人運営

喫茶やデイ利用 就労も

子育て中の親や高齢者、障害者ら多様な人が集い、交流できるユニバーサルカフェ「Tsuda Machi Kitchen（つだまちキッチン）」（徳島市津田本町2）が、地域の人の憩いの場となっている。施設にはデイサービスセンターも併設されており、カフェで販売するパンは、デイサービスの利用者が作る予定。高齢者の就労支援の役割も担う。

社会福祉法人あさがお福祉会（同市大原町外籠）が5月にオープンさせた。徳島スギを使った平屋で、カフェスペース、デイサービス利用者が使う調理スペース、ソファやダイニングテーブルが置かれたデイルームなどがある。

カフェでは、パンやコーヒー、弁当、総菜などを販売。子どもが遊べるスペースや授乳室も完備している。近隣の親子連れや高齢者らが訪れ、思い思いの時間を過ごしている。

デイサービスを利用する高齢者は、調理スペースで自分の昼食や夕食のほか、販売用のパンを作る。販売用のパンを作る場合は、サービス料が減額されることにより、高齢者の就労支援をする仕組み。

デイルームを活用して、親子を対象にした子育てイベントを定期的に開くほか、9月からは障害児の放課後デイサービスも行う。

以前、つだまちキッチンがあった場所にはスーパーがあったが閉店し、土地が売却されていた。法人統括施設長の保岡伸聡さん(41)は「スーパーは近隣の人の交流の場だったとの声を聞いた。それなら、代わりに地域の人が集える場を作ろうと思った」と説明する。

デイサービスと聞くと高齢者だけの施設というイメージがあるが、保岡さんは「高齢者だけではなく、誰でも気軽に立ち寄れる場所にすることで、地域のさまざまな人を結びつける『接着剤』のような存在にしていきたい」と話した。

ユニバーサルカフェは、高齢者や子ども、外国人、障害のある人らが集う福祉拠点となる場所。全国的に増えている。飯泉嘉門知事もマニフェストの一つにユニバーサルカフェの全県展開を掲げており、県では空き家や空き校舎などを利用し、2018年度までに6カ所をオープンさせることを目標としている。

（木下真寿美）

デイルームで開かれた子育てイベント＝徳島市津田本町2のつだまちキッチン